



R431物語 第4回

今回の主人公：弓はま緋
(アジア博物館・井上靖記念館 米子市大篠津町)

岩田英作

日本海に面した弓ヶ浜沿いを走ると、巨大な門を擁した建物に遭遇する。門の右に「アジア博物館」、左に「井上靖記念館」とある。井上靖とは、昭和に活躍した作家である。しかし彼の出身は北海道である。なぜ、ここにアジアと井上靖が居並んでいるのだろうか。今回のR431物語では、私「弓はま緋」が、そのあたりのことを紐解きながらおはなしをさせていただく。



■かすり館。

もともとこの弓ヶ浜地域は綿花の栽培が盛んなところで、この地でとれた綿は「伯州綿」と呼ばれた。今から半世紀前までは、伯州綿を藍染めにして機織る風景がこの地域一帯の民家で見られた。そうして出来上がったのが私「弓はま緋」である。1993年にアジア博物館・井上靖記念館が建つ以前には、そこには「浜かすり民芸館」があった。これら3つの館は、隠岐出身でダイニッカ(塗

料販売の大手)の創業者横地治男がすべて設立したものである。

横地と井上靖を結びつけたのは柔の道だった。横地は柔道八段の腕前で、古賀稔彦・吉田秀彦らを輩出した講道学舎(2012年に閉塾)



■ペルシャ綿。

を設立したのも横地その人である。一方、井上靖も中学・高校と柔道に打ち込み、やがて二人は同じ道場で汗を流す仲となる。横地が井上の功績を顕彰して記念館を建てたのは、井上靖が没して2年後のことだった。実業家であり柔道家だった横地自身は、2007年に鬼籍の人となった。

広大な敷地には、井上靖記念館のほかに次の3館が並んでいる。私の仲間たちを日本各地から集めた「かすり館」、涙のかたちをしたペイズリー模様で知られるペルシャの織物を収蔵する「ペルシャ錦館」、モンゴルの伝統文化を伝える「モンゴル館」。特にペルシャ錦館は、17~18世紀のペルシャ錦2000点を収蔵し、世界3大コレクションの一つとされるから驚きだ。

井上靖記念館には、作家の世田谷の住まいの一部がそのまま復元されている。書斎の机上には、彼が愛用した万年筆と眼鏡が原稿用紙とともに置いてある。井上靖は青春時代に柔道に励むかたわらで、いわゆる西域の歴史にも強い関心を抱くようになる。それはのちに『敦煌』『楼蘭』などの小説に結実し、西域への旅もシルクロードNHK取材班に同行するなど11回に及ぶ。旅と言っても普通の観光旅行とはわけが違う。道なき道を行くような過酷な旅で、しかもそのうちの多くが60歳を超えてからである。西域への果てなき夢と柔道で鍛え上げた肉体がそれを支えていたのだろうか。

館内の庭はそのまま植物園になっていて、染め織りにつかう植物約300種類が所狭しと植わっている。私の原料となるワタやアイももちろんその中にある。アジア文化の香気溢れる空間へ、どうぞいらしてください。(いわた・えいさく/総合文化学科教員*日本近代文学)



■中学時代の井上靖。



(小伊津港)

のんびり雲 第7号 2013

巻頭エッセイ●愛しきわが出雲
竹内まりや 1

特集●山陰港町紀行

- 西郷(隠岐の島町) 2
- 小伊津(出雲市) 7
- 赤碕(琴浦町) 12
- 恵曇(松江市) 17
- 五十猛(大田市) 22
- 鷺浦(出雲市) 27
- 宅野(大田市) 32
- 境港(境港市) 37

山陰の食材で天ぷら大試食会 42

みんなが笑顔になれる店
時計修理 アトリエ・ナベ(出雲市) 46

心をつなぐ、あったか朝市
——溝口町朝市グループ—— 50

ひとと絵本の縁をつなぐ
えほんやとこちゃん(米子市) 54

にっぽん丸で出雲大社へ 58

島根のかるたびと 61

商店探訪⑧さくら文庫・かっぱ書房
——松江に残る古き良き貸本屋—— 64

objects 水辺の器屋(松江市) 68

石見神楽の魅力を伝える
有福神楽保持者会を訪ねて(浜田市) 72

街のおもしろ文化観察学入門⑧
大社編 76

松江に生きる Flat Style 80

奥出雲町阿井のシンボル 鯛ノ巢山 83

天野紺屋 五代目 天野尚さんに聞く
藍染めの不思議(安来市広瀬町) 86

清流が育むやさしい味わい
小椋さんのワサビ(倉吉市関金町) 90

本誌『のんびり雲』を発行している
総合文化学科とは、こんな学科です。 94

編集後記 96

R431物語④弓はま緋(裏表紙裏)